



地域 × 空間 でつむぐ、 づくり

interview

新 築、リノベーション、店舗デザインなどを手がける山口市の建築会社I.D.Works(アイディーワークス)。

2022年2月、本社を構える鰐石町に隣接する黄金町に、リノベーションコミュニティ「okiza」を開き、地域に新たな空間を生み出しました。

今回はI.D.Worksの福田さんを中心に、山口商工会議所で市街地活性化や開業サポートを行う横山さん、ヴィンテージ家具店「JoJo(ロール)」を営みながら事業承継や経営コンサルなどにも携わる大下さんを交え、「地域と空間づくり」をテーマにお話いただきました。

これまでを大事に
できる人が、これからを
大事にできる

福田 okizaはもともと、明治から昭和50年代にかけてつくられた9つの建物が並ぶ土地でした。

地域に溶け込むように根付いているこの場所が、食堂、商店、シェアスペース、オフィスなどが集まるコミュニティに生まれ変わりました。

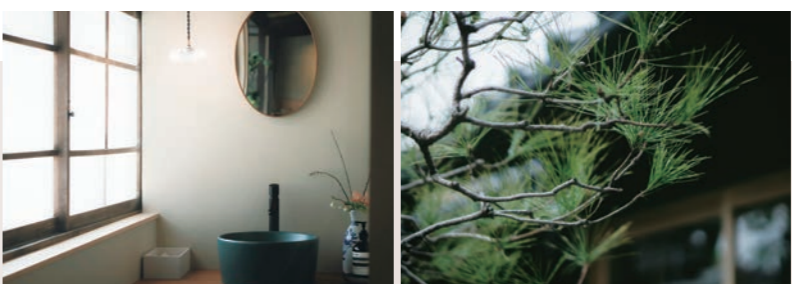
大下 最初、okizaのプロジェクトの話聞いた時「I.D.Worksさんの仕事のスタイルにびっくりだな、と思ったんです。土地、建物のストーリーや背景をとっても大切にして設計する姿をこれまで見てきましたから。

福田 リノベーションする際に意識しているのは「なじませる」ということです。古い柱、壁、床などを活かしつつ、手を加え、ただ残すのではなく今の時代あった使い方を提案する。そうすると、止まっていた時間が再び動き出したかのように見えてくる。

そんな、価値を生み出したいと思っています。

横山 まちづくりに携わっていると、古い商店街や建物の良さを感じる場面に多く出会います。okizaのプロジェクトは、まちの良さを残す開発のお手本になりますよね。

福田 ただ残すのではなく、受け継い



で、時代にマッチした新しい使い方を提案する開発が増えて欲しいですね。

大下 日本は高度経済成長期から続くスクラップ&ビルドの歴史がありますよね。だけど、時代の大きな変化やウッドショックを経て、リノベーションが注目されています。

ただ、それができる業者とできない業者があると感じています。断熱や耐震など、リノベーションは、より高い技術が必要とされる事が多いです。いい設計事務所は、まちのひとつの財産かも知れませんね。

福田 地域の古いものを大事にすることは、地域の未来を大事にすることでもあるんですよね。

建物への愛着、それが

まちに広がっていく

横山 その土地や建物が、デザインや設計に影響することもあるんですか？

福田 大いにありますね。土地から得られるヒントはたくさんあるので、新築でもリノベーションでも現地調査を実施します。

そこにどんな風が吹くのか、光はどんな感じで入るのか、とか。土地や建物、文化を活かした設計は、そこに足を運ばないできません。

大下 私は、ヨーロッパへ家具の買い付けに行くのですが、現地で出会う家具たちの佇まいや纏っている雰囲気から地域を感じることもあります。

福田 建物もそうだと思います。地域で紡いできた歴史、家族で積み重ねてきた思い出なども設計やデザインに活かすことができるんです。それはこの世にふたつとないものだから、やがて強い愛着につながるんですよね。

横山 愛着ですよ。okizaは小さなコミュニティかも知れませんが、他の地域でもこのような受け継ぎ方ができれば、点と点がつながり、それがまちに広がり、まちづくりと呼べるものになっていくんじゃないかと感じています。愛着が広がっていけば、いいまちになり、いい暮らしが続いていくと信じています。

福田 高校生くらいの若い人たちがokizaを訪れて、この雰囲気に触れると「新しい！」と口にするんです。それが嬉しくて。

想いを込めたものや丁寧に手間や時間をかけたものはちゃんと伝わるんだな、と感じています。

まちづくりというところ、おこがましい気もしますが、地域や家族の財産を引き継ぎたいような設計を目指して、地域に根ざしていきたいですね。

大下 応援しています。

横山 とても楽しみです。